

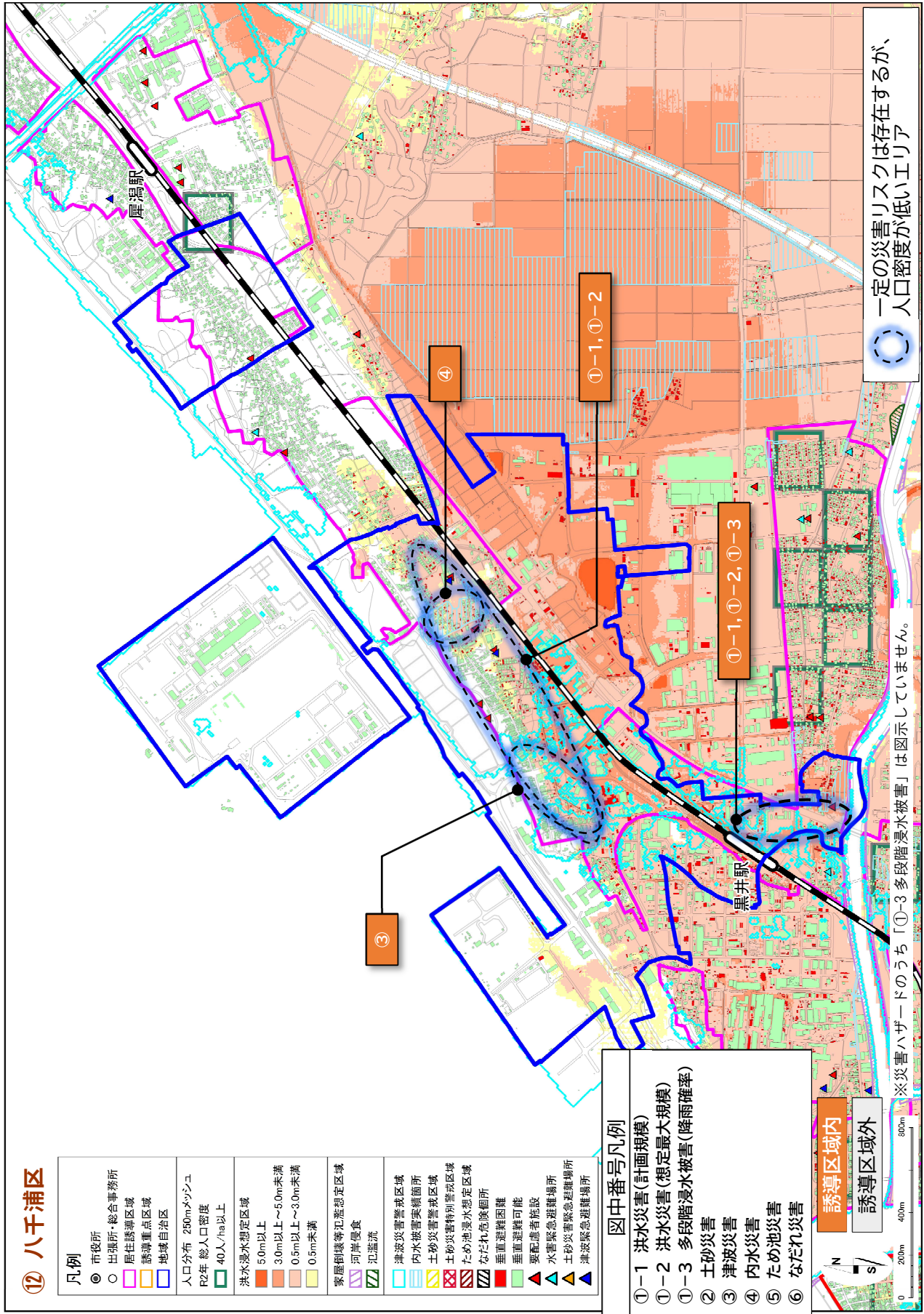


表 災害リスクの整理 (⑫八千浦区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる 誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①ー1 洪水災害 (計画規模)	JR 信越本線黒井駅東側から保倉川にかけてのエリアにおいて、洪水による浸水想定区域と高齢者人口割合の高いエリアとの重複があり災害リスクが存在する。	●	—	—	—
①ー2 洪水災害 (想定最大規模)	上記計画規模と同様のエリアに加え、JR 信越本線より日本海側に形成されている市街地において、一部浸水深が 0.5m 以上～3.0m 未満に該当するエリアで高齢者人口割合が高く、かつ垂直避難が困難なエリアがあり災害リスクが存在する。	●	—	—	—
①ー3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	JR 信越本線黒井駅東側から保倉川にかけてのエリアにおいて、現況から短期にかけて浸水深0.5m以上の浸水想定区域が広がり、一部高齢者人口割合も高いエリアもあることから災害リスクが存在する。 浸水深 3.0m以上となる中低頻度以上の災害リスクは区内には見当たらない。	●	—	—	—
② 土砂災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
③ 津波災害	区西部の沿岸部から黒井駅周辺にかけて広い範囲で津波災害警戒区域が指定されており、一部沿岸の市街地において高齢者人口割合が高いエリアとの重複があり災害リスクが存在する。	●	—	—	—
④ 内水災害	沿岸部及び保倉川沿いに一部内水浸水実績箇所があり、高齢者人口割合が高いエリアとの重複しており災害リスクが存在する。	●	—	—	—
⑤ ため池災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑥ なだれ災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—

(*) 居:居住誘導区域、都:都市機能誘導区域、重:誘導重点区域、外:誘導区域外、—:該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

工業地を除き区内に多く指定された居住誘導区域内において、洪水及び津波災害が想定されるエリアと、高齢者人口割合が高いエリア及び垂直避難困難のエリアの重複があり災害リスクが存在する。